

海外感染症流行情報(2014年1月)

東京医科大学病院 渡航者医療センター

・中国で鳥インフルエンザ H7N9 の第 2 波流行が発生

1 月に入り中国で鳥インフルエンザ H7N9 の患者が急増しています。WHO の報告では昨年 10 月以降の患者数は 1 月 21 日までに 74 人に達しており、昨年 2 月～5 月にみられた第 1 波(患者数 133 人)の流行に匹敵する第 2 波の流行となっています(WHO Global Alert and Response 2014-1-21)。第 2 波の患者発生は浙江省や広東省など南部で多く、患者の平均年齢も 52 歳とやや若年化しています(第 1 波は 58 歳)。患者の中には軽症例もありますが、大多数は重症例です。WHO の報告ではウイルスの変異は認めず、抗インフルエンザ薬の効果にも変化がないとのこと。また、感染源は市場などでの生きた家禽との接触で、ヒトからヒトへの持続感染はおきていないとの見解を示しています。

なお、WHO の海外渡航者向けサイトにも、現時点で中国への渡航制限は必要ないとの公式見解が掲載されました(WHO International Travel and Health 2014-1-22)。ただし、渡航者は流行地域で生きた家禽との接触を避けること、鶏肉や卵は加熱して食べる、手洗いを頻繁にすることなどを勧告しています。

・カナダで鳥インフルエンザ H5N1 の患者が死亡

1 月 3 日、カナダのエドモントで 20 歳の女性(医療従事者)が鳥インフルエンザ H5N1 により死亡しました(WHO Global Alert and Response 2014-1-9)。アメリカ大陸で H5N1 の患者が報告されたのは今回が初めてです。患者の周囲で新たな感染者は確認されていません。この女性は昨年 12 月に中国の北京を約 20 日間訪問しており、そこで感染した可能性が考えられています。

中国では H5N1 の患者が昨年 2 月以降は報告されていませんが、今年の 1 月初旬には中部の湖北省で家禽の間での流行が確認されています(ProMED 2014-1-14)。H5N1 についても H7N9 と同様、家禽との接触を避けるなどの注意をすることが大切です。

・日本から帰国後のドイツ人旅行者がデング熱を発病

ドイツのロベルトコッホ研究所は日本を訪問した 51 歳のドイツ人旅行者が、帰国後間もなくデング熱を発病したことを報告しました(ProMED 2014-1-10)。この女性は昨年 8 月、約 2 週間にわたり長野県、山梨県、広島県、京都府、東京都を訪問しており、いずれかの場所でデング熱に感染した可能性が考えられます。日本では 60 年以上前にデング熱流行が終息していますが、最近、東南アジアなどからの輸入症例が増加しており、昨年は 249 人の患者が確認されました。この病気を媒介するヒトスジシマカは本州以内に棲息しているため、輸入患者が増えれば、日本国内での感染もおこりうると考えられています。詳細は下記の厚生労働省のサイトをご覧ください。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000034381.html>

・中東での MERS 流行

中東での MERS コロナウイルスの患者発生は、1 月になり 2 人(オマーンと UAE から各 1 人)と減少傾向にあります(WHO Global Alert and Response 2014-1-3, 9)。WHO は昨年 11 月中旬から現在までの流行状況を報告しましたが、この間に発生した患者数は 21 人で、うち 7 人が死亡しています(WHO Global Alert and Response 2014-1-20)。国別ではサウジアラビアが 14 人、UAE6 人、オマーン 1 人となっています。サウジアラビアの患者の半数は医療機関での院内感染例で、それ以外は散発例です。このように全体的には患者発生が減少しているようですが、MERS については引き続き警戒する必要があります。

・南太平洋でデング熱などが流行

南太平洋のニューカレドニア、フィジー、タヒチなどは 1 月から雨期に入り、デング熱の患者数が増加しています(WHO Western Pacific Region 2014-1-15)。また、タヒチが属するフランス領ポリネシアでは、昨年 10 月から蚊に媒介されるジカウイルス感染症も流行しており、1 月中旬までに患者数は疑い例も含めて 7000 人以上になりました(米国 CDC Traveler's Health 2014-1-22)。当地でデング熱やジカウイルス感染症を媒介する蚊は昼間に吸血するので、海辺などで日光浴をする際には皮膚に虫よけ薬を塗るようにしましょう。

・インド入国者への生ポリオワクチンの接種要求

インドではポリオ患者が 3 年間発生しておらず、3 月には WHO から根絶宣言が発せられる予定です。これにともなって、インド政府はポリオの常在国(パキスタン、アフガニスタン、ナイジェリア)などからの入国者に、2 月中旬以降、ポリオワクチン接種証明書の提出を要求します(インド日本大使館 2014-1-10 <http://www.in.emb-japan.go.jp/PDF/polio.pdf>)。ワクチンの種類は経口生ワクチンとされており、1 年以内の接種が必要になります。日本では 2012 年に生ワクチンから不活化ワクチン(注射ワクチン)に移行したため、国内で生ワクチンが接種できる施設は大変に少なくなっています。このため、インドやパキスタンなど海外で接種を受けることもご検討ください。